

8-4-9 河川構造物専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 河川構造物専門委員会の開催

委員会開催回数：10回

技術委員会をはじめ各委員会（SWG 含む）からの報告・連絡、及び、河川構造物専門委員会での取組み内容について、検討・審議を行った。また、11月に四国支部所属の河川分野の技術者と四国支部の会議室にて意見交換を行った。

(2) 照査特別WGへの参画、品質セミナー講師派遣

照査特別WGへ委員を派遣し、設計ミス防止のための「品質セミナー」に向けて、河川構造物の設計におけるエラー事例の収集と、エラー事例を基にしたテキスト、セミナー用PPTを作成した。また、令和元年10月2日～11月7日に全国9支部9会場で開催された「令和元年度 技術委員会／品質セミナー“エラー防止のために”」に9名の講師を派遣した。セミナーでは、河川構造物のエラー事例の紹介とともに、河川計画のエラー事例についても紹介した。そして、河川管理施設の特異性、新しい設計法への対応、設計時の情報伝達の重要性、設計条件の妥当性確認などに関する講演を行い、エラー防止の重要性等について説明した。

(3) 「河川砂防技術基準 設計編」の改定にむけた作業部会への参画及びセミナー開催

河川砂防技術基準(案)同解説設計編〔I〕は、平成9年に改訂後一度も改定されていなかった。

平成30年度より国土交通省水管理・国土保全局治水課を事務局として、河川砂防技術基準 設計編として改定にむけた作業が開始された。①河川堤防、護岸・水制、②樋門・水門の2つの作業部会が設立され、それぞれに当専門委員会から2名ずつ計4名の委員が参加し、改定に向けた議論を行っている。その一環として、まず「堤防」が令和元年度7月に部分改定され、改定された内容について12月にセミナーを行い、参加者と意見交換を行った。今後、他の項目についても順次改定の予定である。

(4) 全国建設研修センターへの講師派遣

(一財)全国建設研修センターで開催される「河川構造物設計研修」に対して、平成21年度より共催で取り組み、河川構造物の特徴・設計の考え方、基礎工設計・演習、擁壁の構造設計手法、樋門の設計・演習に関する5日間の研修に対してテキストを作成し、講師を派遣した。

(5) 「河川管理施設の点検結果評価基準等検討会」への委員派遣

国土交通省水管理・国土保全局が開催する「河川管理施設の点検結果評価基準等検討会」へ委員を派遣した。今年度も引き続き、委員会を開催する予定であったが、コロナ禍のため令和元年度は委員会が開催されなかった。令和元年度に行う予定だった委員会は、引き続き令和2年度に開催予定である。

(6) 生産性向上WG、国土地理院PRISMへの参画

生産性向上WGは設計分野、PRISMは測量分野で、i-Constructionの施策である「ICTの全面的な活用」の推進に向けた活動を行っている。

(7) その他

主な活動を以下に示す。

- a) 対外活動委員会WG(水機構)への参画
- b) 維持管理対策WGへの参画
- c) 設計ソフトウェア連絡WGへの参画
- d) RCCM 自主学习教材改定作業
- e) 河川CIMガイドラインの策定委員会への参画

2. 次年度の活動について

- ・照査特別WGへの参画・品質セミナーテキスト作成と講師の派遣
- ・「河川砂防技術基準 設計編」に関する国土交通省水管理・国土保全局治水課を事務局とした作業部会への参画(継続)
- ・「河川構造物設計研修」講師派遣
- ・RCCM教材の改訂作業への参画(継続)
- ・各種委員会(CIM関連等)への参画
- ・災害発生時は、災害対応とその活動報告

(河川構造物専門委員会委員長 佐藤 昭二)